

## 職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の研究

- 健診業務の実施・管理 -

研究分担者 伊藤公人

大同病院 血液・化学療法内科部長

研究要旨 「職場でのH I V健診」の推進は HIV 感染に関する啓発や感染の有無を確認する機会であり、本邦で推進すべき事業であると考えられる。モデル施設における啓発活動等の実践を通じ、「職場でのH I V健診」推進のための普遍的な方法論を同定する可能性が示唆された。

### A 研究目的

「職場でのH I V健診」を推進するため、モデル施設である社会医療法人宏潤会（以下、当法人）関連施設における職場健診での HIV 検査の実施に向けて準備や交渉当を実施し、そのプロセスで判明した事象（問題点等）を明らかにする。

### B 研究方法

研究分担者の所属施設である当法人における健診の実施状況について確認し、職場健診で HIV 検査を実施する上で阻害因子の同定、促進因子の同定を行う。その際、本邦において一般的にどのような内容が阻害因子・阻害因子として存在するのかを、各種参考図書や他施設担当者からのヒアリング、事例収集を行う。

### C 研究結果

- ① 当法人健診センター（だいどうクリニック）受診者の調査を施行したところ、年間約17000名が健診を受診されていることが判明した。
- ② 当法人での健診実施における規定を確認し、梅毒・HBs 抗原、HCV 抗体を測定していることが判明した。
- ③ 健診者の大多数が所属する大同特殊鋼健康管理担当に直接面談し、HIV 健診につき説明・相談を行ったところ、H I V健診の実施につき否定的な見解を提示された。
- ④ 健診担当者がH I V健診に関し否定的な見解

を示した理由を、共同研究者と共有し議論をすすめる上での参考となる事項の抽出を試み、以下の事項が挙げられた。

- ・プライバシーの問題
- ・就業の問題
- ・家庭の問題 など

### D 考察

HIV 健診を本邦で推進するためには非常に多くの障壁や問題がある。本研究で実践している「職場でのH I V健診」の推進実践例を通じて、障壁や問題に対する普遍的・恒常的な問題の解決に繋がる方策やアイデアを見出す必要がある。

### E 結論

当法人における実践例をモデルとして、本邦における「職場でのH I V健診」を可能とする方法論を同定することが求められる。

### G 研究発表

- |        |    |
|--------|----|
| 1 論文発表 | なし |
| 2 学会発表 | なし |

### H 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

- |          |    |
|----------|----|
| 1 特許取得   | なし |
| 2 実用新案登録 | なし |
| 3 その他    | なし |